

第2回庄内町立図書館協議会 会議録

- 1 開催日時：平成23年11月29日（火）18時15分～20時00分
- 2 開催場所：庄内町立図書館 二階自習室
- 3 出席委員：小野寺姫、池田孝一、渡部登美雄、日向ゆき、齋藤すぎ、日野淳
- 4 欠席委員：小野寺博
- 5 事務局：図書館長、係長、主任
- 6 教育委員会：庄内町社会教育課長

進行：主任

1 開会 主任

2 あいさつ

○委員長あいさつ

先般、みなさんから色々意見をいただいた「子ども読書活動推進計画」が立派な形となって策定された。ご協力ありがとうございました。立川小学校の図書館に初めて行き、建物もすばらしく、随所に専任の図書館職員の心配り気配りがたくさんあって、すごく居心地のいい図書館だと感じた。各小学校の図書館に人が配置になり、人の手がかかると夢が膨らむと思った。一般町民が味わえるようなすてきな空間となる図書館の建設が進めたならいいのと思う。一般町民でも図書館の建設について声が聞かれるようになった。今日は、図書館100周年記念事業についてなど、みなさんからたくさんのご意見をいただきたい。

○館長あいさつ

寒い時期となった。図書館も11月から午後6時閉館になった。前回一般の利用者へ提言・要望等をいただいたが、年度途中もありまだ十分に対策が講じられていないところもある。本日、中間の協議会ということでご意見をいただきたい。

3 協議事項

- (1)庄内町立図書館・庄内町内藤秀因水彩画記念館の運営全般について
- (2)庄内町立図書館開館100周年記念事業(案)について
- (3)その他

《事務局説明》

○(1)の資料の内容説明

(委員長) 今説明いただいた図書館・記念館について、全般的でいいので質問、意見をい

ただきたい。

《協議の内容》

(委員) 本館・分館の利用について、人口割にすると立川地域の利用は少ない。地域毎の利用状況のデータとかないのか。清川・立谷沢の利用拡大を図る解決策はないか。

(事務局) データとしては出せるが、今回提示していない。立川地域の清川公民館と立谷沢公民館へ分館から定期的に60冊ほど配送している。ご意見のとおり立川地域における分館の利用の拡大が課題である。

(委員) 清川・立谷沢地区の利用拡大はあるか。余目地域と比べかなり立川地域の利用が落ちているのではないのか。

(事務局) 立川地域で、リピーターの固定化も見られ、なかなか新規利用者の拡大につながらない。鶴岡市のやまびこ号のように本の巡回が身近であればいいと考えるが、現在はそのことについては検討していない。

(委員) 公民館への図書の貸出しは、データとしてはカウントになると思うが、立川地域から利便性に対する声をもっとでればいいと思う。

(課長) 地域の公民館に図書があり、毎年備品購入で補充しており、公民館だよりでも図書の利用についての周知をしている。

(委員) 合併する際に、立川の貸出冊数に限っていえば地域の状況はどうだったのか。住民一人当たりの貸出冊数はいかがか。

(事務局) 合併当時、分館の本のデータ入力の際に図書館専任職員を配置した時には利用者の増加につながった。学校図書館に限らず、図書館に人が配置されることは大切だと認識した。ただ恒常的な人の配置については、いろんな要素があり継続に結びつかなかった。

(委員) 立川地域の貸出し冊数は、資料によると昨年よりは増えているようだ。

(事務局) 図書館を利用する意識が、多少余目地域と立川地域で違っているように思う。もっと図書館の利用について情報発信していくことが大事だと考えている。

(館長) 酒田市立図書館の分館には八幡分館や平田図書センターがあり、専任の職員が配置されている。平田は保健福祉センターとして図書館だけでなく、人が集う施設の中にある。鶴岡地域は、分館が多く、その利用について庄内町と似通った課題がある。

(委員長) 分館という考え方は、いつまでこのような捉え方でいいのか疑問に思う。図書館の利用を欲している人がどれ位なのか。単なる人口比で図れないのではないか。余目一小学区でも、特定の人が多く借りていれば貸出冊数は上がる。分館を立川地域・余目地域の意識付けを切り離していくべきではないのか、公民館の図書コーナーと同じ考えでいいのではないか。

(館長) 立川地域の利用は十分とはいえないが、立川小が読書推進に積極的に取り組んでおり、子どもたちの家族の人が読む本も借りたいという意向に沿い、図書館から学校へ団体貸出しの形で保護者も本を借りれるように便宜を図り、少しずつ利用拡大へ改善を

図っている。

(委員) お年寄りも文字に関心を寄せていると思うので、例えば小型のバンに本を積んで巡回する方法などできないのだろうか。

(事務局) アウトリーチサービスで、遠隔地に読書のサービスを広げることをやらなければいけない分野ではある。

(委員) 以前は、遠隔地にいつ、どこに巡回車が行きますという情報を流して行っていた。本は、小説だけでなく、日常生活に役立つ本があると現地にきてみてもらっていた。一時、県でも自動車文庫として単独館にブックモービル車をまわした。バンに本を積み昼休みに公民館で貸し出し、友達を誘い合いたくさん来てくれたものだ。今はそういう状態は難しい。日中はほとんど仕事に行きお年寄りしかいない。効率的に館外奉仕係のような人がいればいい。立川地域はおおかた外に出て働いている人が多いが読書に対する意識も高い。そのような人たちが、職を離れた時に図書館を利用しようとする道が開けていないのではと思う。余目地域は、図書館があるから本を購入する経費が要らないという利用者の声が多い。

(委員) 公民館に行って、本を借りるという感覚はあまりない。本を借りるのはやはり図書館である。やはり図書館は、ちゃんとした場所があり、配置された職員がいて、サービスがないと図書館とはいえないと思う。

(事務局) 分館は、データベース化しているところが、他の公民館とはちがう。また予約ができるとかメリットがあり、便宜は図っている。ただ、分館は1階と2階に分散しているため利用するのに大変である。

(委員) 公民館の2階にあるにはやはりわかりにくかった。

(館長) 例えば、1階の大ホールに本のスペースを作り、だれでも本を見ることができるようになればと思うが、狩川公民館の考え方もあるため、図書館だけの考えで進めることはできないが。

(委員長) 図書館の分館であれば、本が置いてあるだけでなく、もう少し利用してもらうようにすべきだと思う。

(委員) 4月の午後5時以降の時間帯はゼロになっているがどういうことか。

(事務局) 3月11日の大震災に伴って、4月は午後5時閉館としたためである。

(委員) 記念館の午後5時以降の来館者についてどう考えるか。

(事務局) 記念館も図書館と同じ開館時間のため、来館者数の増減にかかわらず同様の時間帯である。ただし、記念館も節電しながら対応し、利用者が来たら電気をつけている。

(委員) 記念館の使い方において、内藤秀因画伯の作品はすばらしいわけだが、それだけでは集客という観点からなかなかインパクトが今ひとつである。以前余目水彩画展5人展とか小学校の子どもたちの作品展とか行っていたが、どんどん活用して人を集めていくべきである。そのためには、水彩画愛好家の方たちへどんどん開放するような場所にしたほうがいい。

(館長) 第三収蔵庫前を町民ギャラリー的に活用している。子どもたちの作品展も時期を決めてお願いして行っている。阿部智幸先生の絵画展の時も、リーフレットの作成や展示の仕方等に直接関わってもらい、担当との連絡や展示期間中にはご本人の記念館への来館など個人の努力をお願いすることが多い中で、たくさんの来館者が来てくれたと思う。ゼロ予算の状態だったが、盛会な絵画展となった。なるべく人を呼べる企画展をしたいと考えている。

(委員) 阿部先生は、長年教職に携わっていたので、教わった先生の絵を親子で一緒に見たいということでこぞって記念館に来てくれたのでないか。大衆に求められる作品展であれば、人がきてくれるという感じを受けた。

(館長) 町内の老人クラブとか、町外からも色々の団体がきてくれるようになったが、まだまだ内藤画伯のことを知らない人も多い。今年商工会の事業でハッピーシール加盟店に内藤画伯の絵のコピーを店内に飾る事業がスタートし、それが入館者の増につながればと思う。

(委員) 響ホールの2階ギャラリーは、見やすい雰囲気にある。記念館もこれだけの設備があるので活用すべきである。

(館長) 余目水彩画会の展示は何度も行っているが、更に工夫して展示していく。

(事務局) 内藤画伯の絵画展示を第一次的に、企画展も取り入れ、図書館と記念館の運営とも並行しながらできることを考えていきたい。

(委員) 内藤画伯の絵画展示を維持しながら、企画展示との比率を考えればいい。

(委員長) それでは、次の議題に移ります。

(2)について下記内容の概要説明

- ・庄内町立図書館開館100周年記念誌作成事業
- ・庄内町立図書館開館100周年記念事業講演会
- ・「広報しようない」に図書館開館100周年を特集で掲載

(事務局) 図書館開館100年の節目に記念誌を作り、今後の図書館の利用につなげたいと考えている。

(委員長) 広報しようないに「庄内町立図書館開館100周年を特集で掲載はいいことですね。

(事務局) つちだよしはる絵本原画展でも、何か100歳図書館のようなテーマを盛り込めたらと話している。講演会も男女共同参画の担当と連携して女性作家を予定しているが、予算はこれからのため、本日の説明は概要のみで申し訳ない。

(委員長) 講演会には、幅広い年齢層が参加できるものにしてほしい。

(委員) 講演会は、男女共同参画の担当課と連携ということでいいが、図書館が力を入れる100周年記念誌については、今の図書館の職員体制でやらざるを得ないので大変である。

(館長) 記念誌のための作成委員会などの体制はとれないので、現在のスタッフの体制でやらざるを得ない。

(事務局) やはり記念誌に入れる写真などがあるかわからず心配であるし、予算も削減の折、厳しい状況となっている。

(委員) 戦後、図書館の本を空襲で無くなるのを避けるために農家の納屋に分散した。その後、終戦になって元の中央公民館ができ、図書館が移ったのが昭和32年、本を集めたがどこにどのような本を預けたか分からず、本は集まらなかった。現在のシルバー人材センターの南側の図書館で再出発して5年、予算もなくそのまま歴史資料として残す意味で昭和37年に50周年誌を作成した。その後に現在の図書館の歴史がある。

(館長) 100周年記念誌は、立派なものでなくとも、50周年誌に内容を膨らませ歴史資料として残す必要があると考えている。ただ、図書館は資料や写真についてどこにどのようなものがあるかこれから検討していかなくてはならない。

(3)その他

(事務局) 廃棄本のリサイクル資料の処理について説明。また一般閲覧室の配置を変え、今まで左から横一列に並んでいたのを本屋のように縦に並ぶように見やすい配置とし、本の除籍も思い切って行い、蔵書点検時に整理する。

《事務局説明》

次回開催日程：平成24年2月下旬予定

4 その他

特になし

5 閉会